

# 感染症発生動向調査委員会報告 2月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令され、流行が継続中です。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

### 全数把握疾患

#### <レジオネラ症>

1件の肺炎型の報告がありました。共同浴場等の利用はありませんでした。さらに感染経路等調査中です。

#### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

#### <破傷風>

1件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。

#### <風しん>

1件の小児例の報告がありました。予防接種歴1回あり、風しんIgM上昇を認めています。

### 定点把握疾患

平成24年1月23日から平成24年2月19日まで(平成24年第4週から平成24年第7週まで。ただし、性感染症については平成24年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### 平成24年 週一月日対照表

第 4週	1月23日～29日
第 5週	1月30日～ 2月 5日
第 6週	2月 6日～12日
第 7週	2月13日～19日

## 1 患者定点からの情報

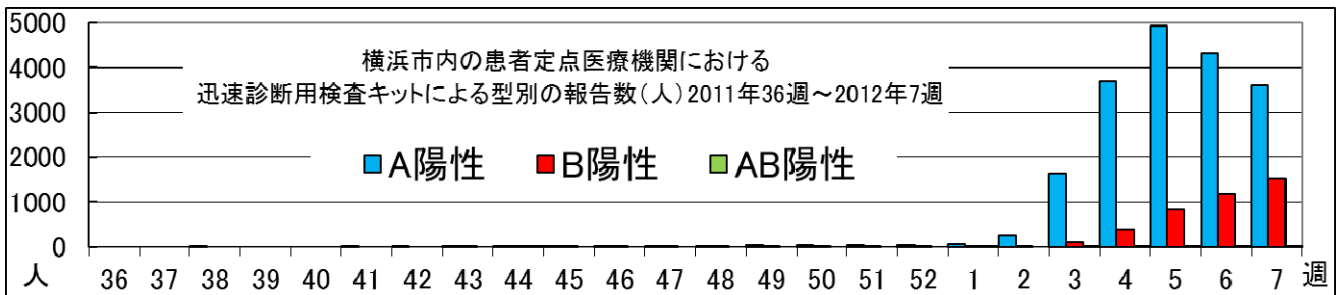
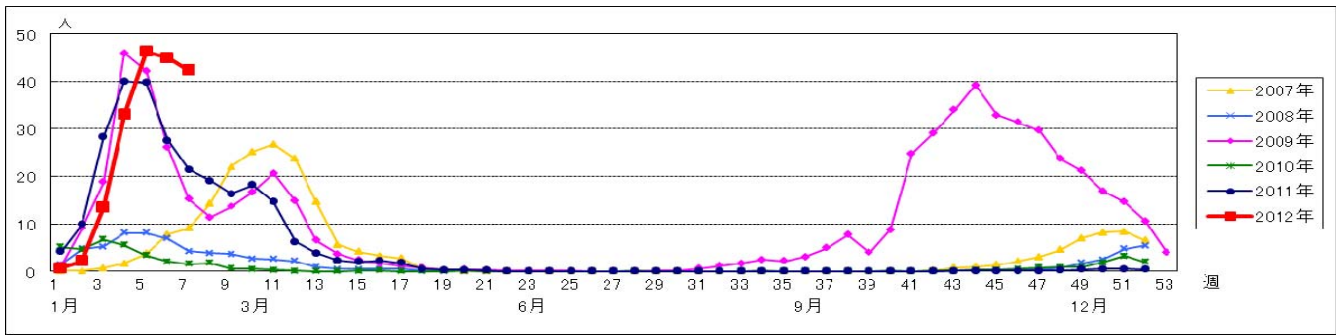
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

#### <インフルエンザ>

第4週に市全体で定点あたり33.02となり、警報発令基準(定点あたり30.00)を超えました。第4週での警報発令は昨シーズンと同時期です。その後第5週から3週間連続で40.00を上回る流行が継続しており、第7週では42.28となっています。迅速キットの結果は徐々にB型が増加し、第7週では3割ほどがB型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3型67件(72.8%)、B型(山形系統)9件(9.8%)B型(ビクトリア系統)8件(8.7%)、B型(解析中)8件(8.7%)でした。また、市内で分離されたAH3型ウイルス68株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI試験で、4倍が5株(7.4%)、8倍が40株(58.8%)、16倍が23株(33.8%)でした。

#### ◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

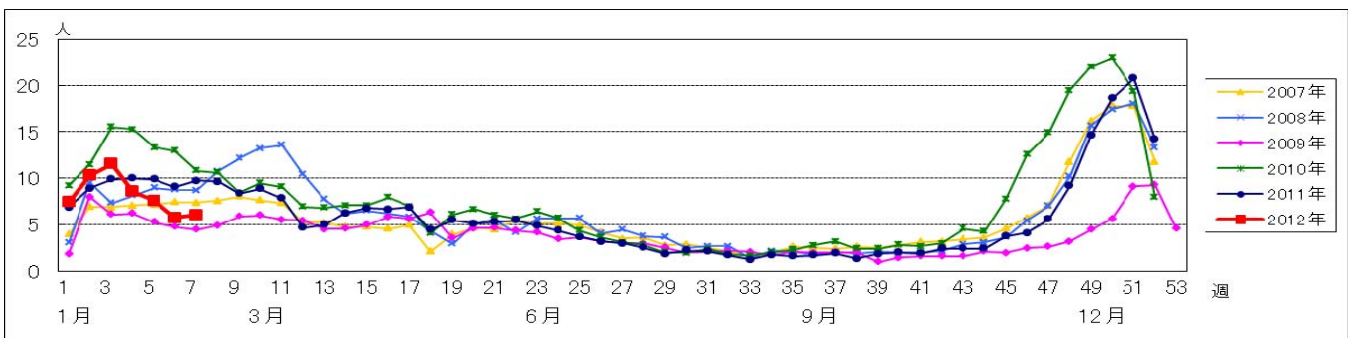


< 感染性胃腸炎 >

市全体で昨年末に流行がみられましたが、第7週では6.01と落ち着いています。しかし、神奈川区では徐々に低下傾向にあるものの、第7週で12.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

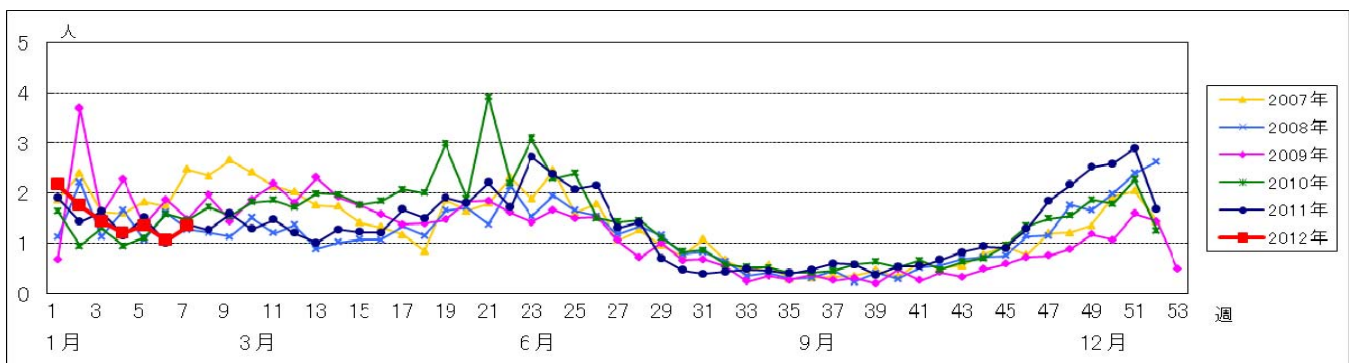
◆横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



< 水痘 >

市内全体では、第7週1.34と落ち着いています。瀬谷区5.75で注意報レベルとなっています。



### <性感染症>

1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が3件でした。

### <基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98、第4週0.78と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第1週では定点あたり2.00、2週1.00、3週2.33、4週1.33と、前シーズンの第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.33を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

### <基幹定点月報>

1月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点60件(鼻咽頭ぬぐい液58件、ふん便2件)、内科定点24件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(眼脂)、基幹定点14件(髄液3件、鼻咽頭ぬぐい液9件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い症例を含む)50人、気管支炎6人、胃腸炎3人、伝染性紅斑1人、内科定点はインフルエンザ24人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、急性結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ2人、上気道炎、肺炎、発疹、心筋炎、髄膜炎、伝染性単核球症、熱性けいれん重積、急性脳症各1人でした。

3月12日現在、小児科定点のインフルエンザ患者17人と気管支炎患者2人からインフルエンザウイルスB(以下B)型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)とB型、気管支炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、内科定点のインフルエンザ患者6人からB型のウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者24人からAH3型、インフルエンザ患者2人と気管支炎患者1人からB型、伝染性紅斑患者1人からヒトパルボウイルスB19型、内科定点のインフルエンザ患者16人からAH3型、基幹定点の急性脳症患者1人からAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が35件、定点以外の医療機関等からは1件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT2)、パラチフスA菌、サルモネラ(*S.Enteritidis*、*S.Agona*、*S.Stanley*、*S.Thompson*、*S.ParatyphiB*、*S.Newport*、*S.Manhattan*、*S.Typhimurium*)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は、小児科定点から6件で、A群溶血性レンサ球菌が6件検出されました。定点以外の医療機関等からは10件で、B群溶血性レンサ球菌が3件、バンコマイシン耐性腸球菌が1件、インフルエンザ菌が2件検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(2月)

感染性胃腸炎							
検査年月		2月			2012年1月～2月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		0	35	1	0	51	5
菌種名							
赤痢菌							2
腸管出血性大腸菌				1			1
パラチフスA菌			1			2	
サルモネラ			20			20	1
コレラ菌							1
不検出		0	14	0	0	29	0
その他の感染症							
検査年月		2月			2012年1月～2月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		6	2	10	14	5	17
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1	3		4		
		T6	1		1		
		T4			1		
		T12	1		2		
		T28	1		2		
		T B3264			2		
B群溶血性レンサ球菌				3			9
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						1	
バンコマイシン耐性腸球菌				1		1	1
インフルエンザ菌				2	2		2
不検出		0	2	4	0	3	5

\*:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】